

「イエスの平安」
ヨハネの福音書 14 章 27 節

杉本 潤 2025.8.31

I. 思い煩いの多い日々

・心配事に関する研究（アーニー J. ゼリンスキー）

- （１）心配の 40% は、「決して起こらないこと」であり、
- （２）心配の 30% は、「すでに起こってしまったこと」であり、
- （３）心配の 22% は、「取るに足りないこと」であり、
- （４）心配の 4% は、「私たちの力ではどうにもできないこと」であり、
- （５）心配の 4% は、「私たちが変えることのできる事」である。

II. イエスの平安とは

「平安」⇒「平和」「安心」「安全」とも訳される。ギリシャ語の用語そのものは状態を表す言葉。

「シャローム」⇒ヘブル語。神からもたらされるすべての祝福をあらわすことば。

イエスの平安は父なる神との関係から来るもの。

神に受け入れられ、神に喜ばれる者として存在し、変わらない愛で愛される平安、安心。

III. イエスがもたらしたもの

14 章 1 節「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」

14 章 16 節「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。」

まとめ.

信仰をもって歩んでいたとしても、この地上においては困難や苦難がなおある。しかしイエスの平安がある限り、それらが信仰者の心を不安で満たすことはない。神は絶えず、神と共に歩む平安の道へと私たちを招いている。心が騒ぐ時、目の前の状況に恐れを覚える時、状況や環境に支配されない平安があることを御言葉から覚え続けて歩もう。